

平成27年度 事務事業マネジメントシート

事業名	青少年相談事業			会計	款	項	目	大	小
				01	10	05	10	02	01
政策	03	3節 学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）		主管課	生涯学習課				
施策	3-3	次代を担う青少年を育てる地域環境づくり		主管課長	玉田 雅則				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市内在住・在学の20歳未満の青少年及び保護者	意図	日々の健全な社会生活や学校生活をを送れるように、安心していつまでも相談に乗れるようにする。
事業内容	青少年の健全育成を図るために、専門相談員による青少年や保護者等からの電話、来所及び訪問相談の実施。			
事業開始から現在までの状況変化	青少年のコミュニケーション能力の低下、欲求耐性の低下、社会性の未熟さが社会問題となっていることから、昭和61年から本事業がスタートし、平成21年度からは、2名体制から3名へと相談業務体制の拡充を図った。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	相談件数	456	532	626	件	↑↑↑
②							
③							
④							
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）
事務事業のコスト	平成25年度	平成26年度	平成27年度	継続した相談件数も多く、相談内容も多岐にわたっていることから、より広範囲の人材から相談員を募り、相談に対応した。			
事務事業の総コスト(a=b+c)	7,357,250	7,274,660	7,595,080				
事業費(b)(円)	4,398,050	4,315,460	4,635,880				
うち一般財源	4,398,050	4,315,460	4,635,880				
職員給与費(c)(円)	2,959,200	2,959,200	2,959,200				
人役・職員(人)							
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)	2.70	2.70	2.70				
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	B 市が担うとともに、市民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H27)の改善計画	引きこもりや不登校、就学、就業について本人又は保護者、家族からの相談に応じる。	③取組の課題	他の相談との連携を強化する。
②今年度(H27)に実施した取組	継続的な相談が多く、内容も長期化、複雑化しており、相談数、相談件数の増加に対応できるように職員の共通理解に重点を置いた。	④今後の改善計画	相談員の研修の充実化と、関係機関とのよりきめ細やかな情報交換及び連携を図る。